

資料9 アンケート票

ベッドまわりの物品への評価に関するアンケート

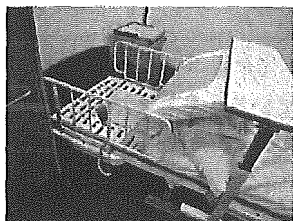
貴病棟につきまして、下記の設問のご回答をお願い致します。

病院名： _____

回答者氏名： _____

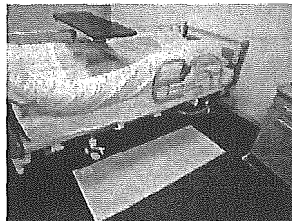
なお、設問中にある物品につきましては、製品や病院によって呼称が異なりますが、本調査票では以下の呼称とさせていただきます。

・離床センサー



マットレスの下などに設置し、荷重が離れると感知するセンサー

・床敷きセンサー



ベッドサイドの床に設置し、荷重がかかると感知するセンサー

・タッチセンサー

ベッド柵上端に巻くように設置し、触れると感知するセンサー

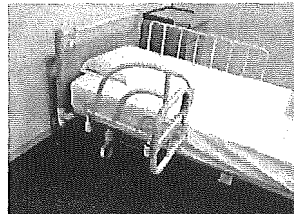
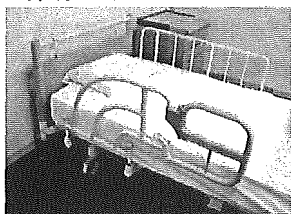
・衝撃吸収マット



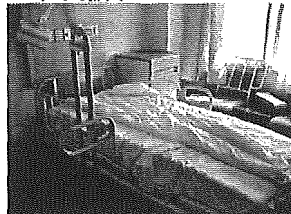
ベッドサイドの床に設置し、転落した場合の衝撃を緩和するマット

・ベッドに設置する手すりとなる物品には以下のようなものがあります。

・介助バー アーム部分の角度を調整できるベッド柵。ベッド端座位や車椅子などへの移乗の際の手がかりとなる。



・立位支援ポール



ベッドサイドに設置するポール。装着には工具を用いる。水平バーも備わっており、ベッド端座位や車椅子などへの移乗や立位保持の際の手がかりとなる。装着した状態のままベッドを動かすことはできない。動かす際には、工具でポールの留め具を緩める必要がある。

I. 貴病棟の基礎情報をご回答下さい。

病棟名 ()、診療科目名 ()、病床数 () 床

直近3ヶ月間(9~11月)の平均在院日数 () 日

直近3ヶ月間(9~11月)の転倒・転落の発生件数：インシデント () 件、アクシデント () 件

II. 貴病棟において、下記物品の使用状況などについてご回答下さい。

	現在、病棟で使用 「している(O)」 「していない(X)」	←左質問で「使用している」と回答した場合			
		使用台数	メーカー名	製品名	型番
離床センサー					
床敷きセンサー					
タッチセンサー					
その他センサー					
衝撃吸収マット					
電動ベッド					
ベッドに設置する手すり					

↑上記設問で「使用していない」と回答した物品につきまして、下記 a)、b)にご回答下さい。

a) 現在は使用していないが、貴方(ご回答いただいている方個人)のこれまでの勤務経験(他院含む)の中で使用したことがあるものがございましたら、下記にチェックをつけて下さい。

離床センサー 床敷きセンサー タッチセンサー その他センサー (製品名:)
 衝撃吸収マット 電動ベッド ベッドに設置する手すり

b) 今後、病棟に導入を検討したいものがございましたら、下記にチェックをつけて下さい。

離床センサー 床敷きセンサー タッチセンサー その他センサー (製品名:)
 衝撃吸収マット 電動ベッド ベッドに設置する手すり なし

III. 病棟で使用しているベッドのベッド柵の形式について、該当するものにチェックをつけて下さい。

- 差し込み式 折りたたみ式両側柵 (折りたたみ式の柵がベッドの両側にそれぞれひとつずつついているもの)
折りたたみ式4点柵 (折りたたみ式の柵がベッドの両側にそれぞれ2つずつついているもの)

*) これ以降の設問は、センサー類・電動ベッド・ベッド柵・ベッドに設置する手すり (介助バーや立位支援ポール) など諸物品に関する内容となっております。前ページ設問 II で、「現在、病棟で使用している」もしくは「これまでの勤務経験の中で使用したことがある」と回答した物品についてのみ、ご回答下さい。これまで使用したことがない物品につきましては、回答不要です。

IV. 下記 a)~h) の各物品の性能を評価するにあたって、選択肢に「特に重視する項目」の順に優先順位をつけて下さい。そして、上位3つまでに入る項目には○を、下位3つまでに入る項目には×を、選択肢の番号上につけて下さい。さらに、○をつけた項目につきましては、その理由を具体的にお教え下さい。

a) 離床センサーについて

- | | | |
|-----------------------------|-----------------------|--------------------|
| 1) センサー部の設置が簡便なこと | 2) 配線の接続・設置が簡便なこと | 3) プラグがしっかり固定できること |
| 4) 配線が邪魔にならないこと | 5) 処置の際、邪魔にならないこと | 6) 動作確認が簡便なこと |
| 7) ON/OFF の状態が目視で確認できること | 8) ON/OFF の切り替えが簡便なこと | |
| 9) 患者が ON/OFF の操作をできないこと | 10) 反応感度が高いこと | |
| 11) 反応感度の調整ができること | 12) 反応音の調整ができること | |
| 13) 硬さや厚みなどで、寝心地に不快感を与えないこと | 14) 清掃が簡便なこと | |
| 15) その他 (|) | |

○をつけた項目について、その理由を具体的にご記入下さい。

○をつけた項目の番号	理由

b) 床敷きセンサーについて

- | | | |
|--------------------------|-----------------------|--------------------|
| 1) センサー部の設置が簡便なこと | 2) 配線の接続・設置が簡便なこと | 3) プラグがしっかり固定できること |
| 4) 配線が邪魔にならないこと | 5) 処置の際、邪魔にならないこと | 6) 動作確認が簡便なこと |
| 7) ON/OFF の状態が目視で確認できること | 8) ON/OFF の切り替えが簡便なこと | |
| 9) 患者が ON/OFF の操作をできないこと | 10) 反応感度が高いこと | |
| 11) 反応感度の調整ができること | 12) 反応音の調整ができること | |
| 13) 部分的に反応するよう設定ができること | 14) すべらないこと | |
| 15) 清掃が簡便なこと | 16) その他 (| |
| |) | |

○をつけた項目について、その理由を具体的にご記入下さい。

○をつけた項目の番号	理由

c) タッチセンサーについて

- 1) センサー部の設置が簡便なこと
- 2) 配線の接続・設置が簡便なこと
- 3) プラグがしっかり固定できること
- 4) 配線が邪魔にならないこと
- 5) 処置の際、邪魔にならないこと
- 6) 動作確認が簡便なこと
- 7) ON/OFF の状態が目視で確認できること
- 8) ON/OFF の切り替えが簡便なこと
- 9) 患者が ON/OFF の操作をできないこと
- 10) 反応感度が高いこと
- 11) 反応感度の調整ができること
- 12) 反応音の調整ができること
- 13) すべらないこと
- 14) 清掃が簡便なこと
- 15) その他 ()

○をつけた項目について、その理由を具体的にご記入下さい。

○をつけた項目の番号	理由

d) 衝撃吸収マットについて

- 1) 設置が簡便なこと
- 2) 収納が簡便なこと
- 3) 処置の際、邪魔にならないこと
- 4) すべらないこと
- 5) 大きさが選べること
- 6) 清掃が簡単なこと
- 7) その他 ()

○をつけた項目について、その理由を具体的にご記入下さい。

○をつけた項目の番号	理由

e) 電動ベッドについて (マットレスを含む)

- 1) ベッド移動が簡便なこと
- 2) キャスターのロック/ロック解除が簡便なこと
- 3) 低床にできること
- 4) リモコンの操作が簡便なこと
- 5) 2つのボタンを同時に押さないと動かないなど、リモコンが誤動作を防ぐ仕組みとなっていること
- 6) リモコンのケーブルが邪魔にならないこと
- 7) リモコンの設置場所が適切な位置に確保されていること
- 8) 患者がリモコンの操作が行えないようにできること
- 9) 通常のリモコンとは別に、医療スタッフ用のリモコンがフットボードなどに設けられていること
- 10) 高さ調整が簡便なこと
- 11) 処置がしやすいこと
- 12) 寝心地がよいこと
- 13) 様々な体位がとれる機能がついていること
- 14) ベッドをギャッジアップしたときに、頭側の柵も一緒にギャッジアップする機能がついていること
- 15) マットレスが軽いこと
- 16) こわれにくいこと
- 17) 整備・点検が簡便なこと
- 18) 清掃が簡便なこと
- 19) その他 ()

○をつけた項目について、その理由を具体的にご記入下さい。

○をつけた項目の番号	理由

f) ベッド柵について

- 1) 折りたたみ式であること
- 2) 差し込み式であること
- 3) 取り付け/柵上げが簡便なこと
- 4) 取り外し/折りたたみが簡便なこと
- 5) 患者が自分ではずせない/下げられないように固定できること
- 6) 隙間なく柵を設置できること
- 7) ベッド柵本体の隙間に身体の一部が挟まらないこと
- 8) 患者が乗り越えられない高さが確保されていること
- 9) 高さ調節ができること
- 10) ベッド柵を付けたまま、患者がベッド上で端座位の姿勢がとれる付け方ができること
- 11) シーツ交換の際に邪魔にならないこと
- 12) 清掃が簡便なこと
- 13) その他 ()

○をつけた項目について、その理由を具体的にご記入下さい。

○をつけた項目の番号	理由

g) ベッドに設置する手すり（介助バー、立位支援ポールなど）について

- 1) 取り付け/取り外しが簡便なこと
- 2) 軽いこと
- 3) 取り付けのままベッド搬送ができること
- 4) 患者が自分ではずせないように固定できること
- 5) 患者が一人で可動部分を操作できないようにできること
- 6) ヘッドボードやフットボードやベッド柵との間に隙間なく設置できること
- 7) いろいろな箇所に設置できること
- 8) 柵の隙間に身体の一部が挟まらないこと
- 9) 患者が乗り越えられない高さが確保されていること
- 10) 患者が握りやすい形状、太さとなっていること
- 11) 患者が体重をかけた際、ぐらつかず安定していること
- 12) 処置の際、邪魔にならないこと
- 13) シーツ交換の際に邪魔にならないこと
- 14) 清掃が簡便なこと
- 15) その他 ()

○をつけた項目について、その理由を具体的にご記入下さい。

○をつけた項目の番号	理由

h) ナースコールについて

- 1) ボタンが押しやすいこと
- 2) 通常の押しボタンとは別に、ナースコール本体を握るだけで呼び出せるボタンがついていること
- 3) ナースコール本体が握りやすい大きさ、形状であること
- 4) 軽いこと
- 5) ケーブルの長さが調整できること
- 6) ケーブルが邪魔にならないこと
- 7) コンセントから抜けないようにプラグがしっかり固定できること
- 8) トイレ介助や点滴など内容に応じて呼び出しボタンが選択でき、コールの内容が把握できること
- 9) 押して反応したことが患者自身に分かるように光ること
- 10) 清掃が簡便なこと
- 11) その他 ()

○をつけた項目について、その理由を具体的にご記入下さい。

○をつけた項目の番号	理由

V. 下記 a)～i)の各物品を使用してお感じになることについて、以下の設問にご回答下さい。

- 1) 使用していて不便に感じたことや不満に感じたことがございましたら、ご自由にご記入下さい。例えば、「〇〇の状態の患者に使用していたが、こんな困ったことがあった」や「処置の際にこんな困ったことがあった」や「こういうときに不便だと思う。使いにくい」など、不便や不満にお感じになった場面を具体的にご記入いただければ幸いです。
- 2) 改良して欲しい点がございましたら、ご自由にご記入下さい。
- 3) 「こんな機能や性能があったらいい」という新機能などのアイデアがございましたら、ご自由にご記入下さい。

a) 離床センサーについて

1) 不便や不満に感じたこと

2) 改良して欲しい点

3) 新機能のアイデア

b) 床敷きセンサーについて

1) 不便や不満に感じたこと

2) 改良して欲しい点

3) 新機能のアイデア

c) タッチセンサーについて

1) 不便や不満に感じたこと

2) 改良して欲しい点

3) 新機能のアイデア

d) その他センサーについて (p1. 設問 II で「その他センサー」を導入している場合のみご回答下さい)

1) 不便や不満に感じたこと

2) 改良して欲しい点

3) 新機能のアイデア

e) 衝撃吸収マットについて

1) 不便や不満に感じたこと

2) 改良して欲しい点

3) 新機能のアイデア

f) 電動ベッドについて (マットレスを含む)

1) 不便や不満に感じたこと

2) 改良して欲しい点

3) 新機能のアイデア

g) ベッド柵について

1) 不便や不満に感じたこと

2) 改良して欲しい点

3) 新機能のアイデア

h) ベッドに設置する手すり（介助バー）について

1) 不便や不満に感じたこと

2) 改良して欲しい点

3) 新機能のアイデア

i) ナースコールについて

1) 不便や不満に感じたこと

2) 改良して欲しい点

3) 新機能のアイデア

アンケートは以上です。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

2. 転倒・転落に対する物的対策の適切な導入手法に関する研究

分担研究「転倒・転落に対する物的対策の適切な導入手法に関する研究」(1)

—質問紙による現状分析—

横井 郁子 (首都大学東京健康福祉学部看護学科)

村田加奈子 (首都大学東京健康福祉学部看護学科)

清水 裕子 (聖母女子短期大学)

辻 容子 (日本大学大学院理工学研究科)

橋本 美芽 (首都大学東京健康福祉学部看護学科)

1. 研究背景と目的

本研究班は、平成 15 年度、16 年度の 2 カ年で医療施設、とくに急性期病院における転倒・転落防止の対策のひとつとして、用具・設備などの環境を調整することの必要性について調査・検討を重ねてきた¹⁾。その結果、患者像のちがいを意識した環境を提案するまでに至ったが、その実践には用具などの知識、選択および必要数の算定、そして購入、設置とさまざまな知識と実践能力が要求され、また、現在の業務量との関係を検討する必要があるなど、いくつかの課題も明らかとなった。研究過程において用具使用に関して看護師にインタビューをしているが、その中で用具の有効的導入が看護師の個人特性に由来している可能性も示唆され、物的対策の検証として患者とその物との関係性をみると同時に、物を患者に提供する看護師とそれら物との関係を検討ことが重要であると考えた。

そこで本研究では現状において環境整備を担っている看護師に焦点を当てることとする。看護師の転倒・転落防止を考慮した環境整備に関する知識と実践状況の現状を分析し、その上で更なる発展のためにどのような現任教育、および組織的取り組みが必要かを導くことを目的とした。

2. 調査方法

2-1. 質問紙作成

質問項目は、これまでに研究者によって明らかにされた知見から、主要な概念を取り上げた。その概念とは、転倒・転落による不利益から患者を守る看護師の責務、とりわけ、安全な療養環境の調整に関する概念である(図 1)。その概念毎に質問項目を作成した。質問項目は、医師看護師の人間関係に関する項目を除き、専門家による項目の作成とした。

質問紙は、基本属性質問紙と物的対策に関する質問紙とからなる。基本属性質問紙は、年齢・経験年数(自記式)、性別・患者受け持ちの経験・リーダー業務経験・転倒転落経験(2 件法)、専門教育歴・免許の種別(4 件法)とした(表 1)。

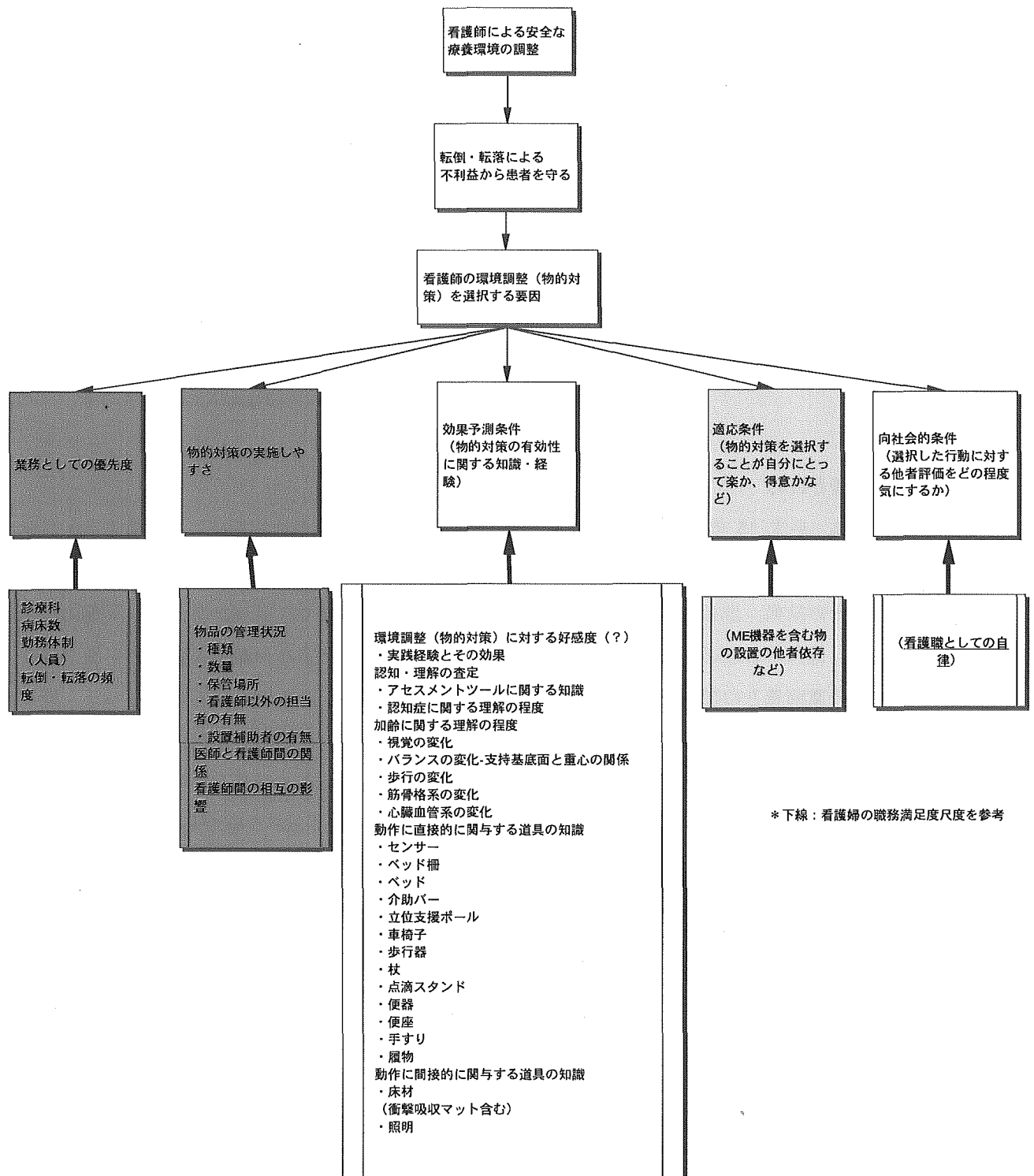


図 1. 看護師の物的対策実施に影響をおよぼす要因

表 1. 基本属性質問紙

項目番号	質問項目	評定法	スケールの反転	欠測の処理
1	年齢	自記		未記入は系列平均を投入
2	性別	2 件法	*	未記入は削除
3	専門教育歴	4 件法	*	未記入は 4 : 記入なし
4	免許の種別	4 件法	*	未記入は 4 : 記入なし
5	経験年数	自記		未記入は系列平均を投入
6	患者受け持ちの経験	2 件法	*	未記入は 0 : なしに統合
7	リーダー業務経験	2 件法	*	未記入は 0 : なしに統合
8	転倒転落経験	2 件法	*	未記入は 0 : なしに統合
合計	8 項目			

物的対策に関する質問紙は、物的対策の実施状況 5 項目(7 件法)、治療療養自己適性 2 項目(7 件法)、治療療養病棟適性 5 項目(7 件法)、医師看護師関係 3 項目(7 件法)、看護師相互関係 7 項目(7 件法)、専門職としての自立 5 項目(7 件法)、この内、医師看護師関係・看護師相互関係・専門職としての自立は、看護師の職務満足度尺度²⁾の 48 項目 5 下位尺度のうち、本研究に関連すると考えられる 3 下位尺度 15 項目を用いた。さらに、患者動作支援態度 1 項目(2 件法)、患者動作支援意識 5 項目(7 件法)、トイレ 18 項目(7 件法)、移動用具メンテナンス 2 項目(2 件法)、移動用具調整 6 項目(7 件法)、センサー実態 1 項目(2 件法)、センサー安全経験 1 項目(自記式)、センサー態度(7 件法)、高齢者アセスメント I : 7 項目(2 件法)、高齢者アセスメント II : 4 項目(7 件法)、照明 1 項目(2 件法)、床面滑り 2 項目(7 件法)、福祉機器知識 1 項目(7 件法)、合計 82 項目であった (表 2)。

2-2. 質問紙の妥当性と信頼性

質問紙は、看護師の職務満足感尺度は妥当性と信頼性が確保されていた。

他の項目は、安全に関する福祉工学 1 名、および看護心理学 1 名、保健学 1 名の合計 3 名の専門家による検討を行い、内容妥当性を確保する。信頼性は、 α 係数を用いて確保する。

2-3. 質問紙の調査手続き

質問紙は、研究者バイアスを排除するために、予め実施機関の担当者に口頭と書面にて説明を行った。担当者は、対象者に口頭と書面にて説明を行い、同意の得られたもののみ回収した。

2-4. 対象

都市部にある 500 床以上の急性期病院、2 施設の看護師を対象とした。

2-5. 調査期間

平成 17 年 12 月 1 日から平成 18 年 1 月 10 日

2-6. 質問紙回収方法および分析方法

郵送留め置き法により回収した。集計、分析には SPSS Ver.12 を使用した。

2-7. 倫理的手続き

倫理的配慮として看護師には研究の主旨、業務の評定とは関連がないことを書面で説明した。無記名の上、了解したもののみ間接的に回収した。

表 2. 物的対策に関する質問紙 試案

	項目番号	下位概念	評定法	スケール反転
1	1~5	物的対策の実施状況	7 件法	*
2	9,11	治療療養自己適正	7 件法	*
3	6,7,8,10,12	治療療養病棟適正	7 件法	*
4	13~15	医師看護師関係	7 件法	*
5	16~22	看護師相互関係	7 件法	*
6	23~27	専門職としての自立	7 件法	*
12	28	患者動作支援態度	2 件法	*
13	29~33	患者動作支援意識	7 件法	*
14	34~51	トイレ	7 件法	*
15	52~53	移動用具メンテナンス	2 件法	*
16	54~59	移動用具調整	7 件法	*
17	60	センサー実態	2 件法	*
18	61	センサー安全経験	自記	
19	62~67	センサー態度	7 件法	*
20	68~74	高齢者アセスメント I	2 件法	*
21	75~78	高齢者アセスメント II	7 件法	*
22	79	照明	2 件法	*
23	80~81	滑り	7 件法	*
24	82	福祉機器知識	7 件法	*

3. 結果

本項においては各質問項目の回答状況を詳細に記す。下位概念の因果関係については次項で述べる。

3-1. 回収状況

回収率は75.2%であった。すべてを有効回答とし、まずは単純集計を行った。

3-2. 各質問項目の結果

3-2-1. 転倒・転落対策としての物的対策実施状況および用具取り扱いに関する負担感

看護師による転倒・転落対策としての物的対策実施状況および用具取り扱いに関する負担感についての結果を表3から7に示す。

表 3. 質問項目 1. 私は転倒・転落対策として、患者に合わせたベッド周辺の物品の配置や動きやすい福祉機器の導入など、療養生活上の物的な調整を行っている。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそうだ	79	12.5	12.5	12.5
	おおむねそうだ	318	50.2	50.4	62.9
	ややそうだ	167	26.4	26.5	89.4
	どちらともいえない	53	8.4	8.4	97.8
	ややそうではない	7	1.1	1.1	98.9
	おおむねそうではない	5	0.8	0.8	99.7
	全くそうではない	2	0.3	0.3	100.0
	合計	631	99.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	2	0.3		
合計	633	100.0			

表 4. 質問項目 2. 私は患者の認知・理解の程度の査定をもとに療養生活上の物的な調整を行っている。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそうだ	69	10.9	10.9	10.9
	おおむねそうだ	318	50.2	50.4	61.3
	ややそうだ	197	31.1	31.2	92.6
	どちらともいえない	36	5.7	5.7	98.3
	ややそうではない	7	1.1	1.1	99.4
	おおむねそうではない	4	0.6	0.6	100.0
	合計	631	99.7	100.0	
	欠損値	システム欠損値	2	0.3	
合計	633	100.0			

表 5. 質問項目 3. 私は患者の動作能力の査定をもとに療養生活上の物的な調整を行っている。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそうだ	69	10.9	10.9	10.9
	おおむねそうだ	303	47.9	48.0	59.0
	ややそうだ	212	33.5	33.6	92.6
	どちらともいえない	35	5.5	5.5	98.1
	ややそうではない	9	1.4	1.4	99.5
	おおむねそうではない	3	0.5	0.5	100.0
	合計	631	99.7	100.0	
	欠損値	システム欠損値	2	0.3	
合計	633	100.0			

表 6. 質問項目 4. 私は患者が転倒・転落による傷害を予測しながら、転倒・転落対策の環境調整を行っている。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそうだ	114	18.0	18.0	18.0
	おおむねそうだ	328	51.8	51.9	69.9
	ややそうだ	166	26.2	26.3	96.2
	どちらともいえない	17	2.7	2.7	98.9
	ややそうではない	6	0.9	0.9	99.8
	おおむねそうではない	1	0.2	0.2	100.0
	合計	632	99.8	100.0	
欠損値	ｼｽﾃﾑ欠損値	1	0.2		
合計		633	100.0		

表 7. 質問項目 5. 私は療養具など用具を取り扱うことに負担は感じない。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそうだ	85	13.4	13.6	13.6
	おおむねそうだ	206	32.5	32.9	46.4
	ややそうだ	153	24.2	24.4	70.8
	どちらともいえない	139	22.0	22.2	93.0
	ややそうではない	27	4.3	4.3	97.3
	おおむねそうではない	15	2.4	2.4	99.7
	全くそうではない	2	0.3	0.3	100.0
	合計	627	99.1	100.0	
欠損値	ｼｽﾃﾑ欠損値	6	0.9		
合計		633	100.0		

質問項目 1 から 4 (表 3 から 7) の結果から、約 9 割が程度の差はあれ転倒・転落対策としての物的対策を患者の認知・理解力、そして動作能力に合わせて実施していると回答していた。ただし、項目 5 に示したように療養具等の物の取り扱いに対す負担感をそれほど感じていない割合は実施割合よりも低くなっている。このことは看護師のほとんどが物的対策を実践しているものの負担感がある業務であることが推測される。

3-2-2. 日常の業務一般について

表 8 から 12 は勤務病棟の医療処置の忙しさおよびスタッフおよび自分自身の実践能力に関するもの質問項目の回答結果であり、表 13, 14 は転倒・転落対策の関心度に関する結果である。表 15 から 29 の質問項目は「看護婦の職務満足度尺度²⁾」の質問項目である。質問項目 13 から 15 (表 15 から 17) は上記尺度の構成要素である「医師と看護婦間の関係」に対応している。質問項目 16 から 22 (表 18 から 24) は構成要素の「看護悲観相互の影響」に対応している。質問項目 23 から 27 (表 25 から 29) は構成要素の「専門職としての自律」に対応している。

表 8. 質問項目 6. 私の病棟では輸液, 輸血, 注射に関する業務が非常に多いと思う.

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそうだ	212	33.5	33.5	33.5
	おおむねそうだ	133	21.0	21.0	54.5
	ややそうだ	110	17.4	17.4	71.9
	どちらともいえない	55	8.7	8.7	80.6
	ややそうではない	31	4.9	4.9	85.5
	おおむねそうではない	46	7.3	7.3	92.7
	全くそうではない	46	7.3	7.3	100.0
	合計	633	100.0	100.0	

表 9. 質問項目 7. 私は病棟の主な対象疾患と治療について熟知していると思う.

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそうだ	15	2.4	2.4	2.4
	おおむねそうだ	156	24.6	24.6	27.0
	ややそうだ	232	36.7	36.7	63.7
	どちらともいえない	145	22.9	22.9	86.6
	ややそうではない	51	8.1	8.1	94.6
	おおむねそうではない	24	3.8	3.8	98.4
	全くそうではない	10	1.6	1.6	100.0
	合計	633	100.0	100.0	

表 10. 質問項目 8. 私の病棟には主な対象疾患と治療について熟知している看護スタッフがそろっていると思う.

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそうだ	46	7.3	7.3	7.3
	おおむねそうだ	235	37.1	37.4	44.7
	ややそうだ	195	30.8	31.0	75.7
	どちらともいえない	115	18.2	18.3	94.0
	ややそうではない	30	4.7	4.8	98.7
	おおむねそうではない	5	0.8	0.8	99.5
	全くそうではない	3	0.5	0.5	100.0
	合計	629	99.4	100.0	
欠損値	77欠損値	4	0.6		
合計		633	100.0		

表 11. 質問項目 9. 私は患者の心情など理解できるほうだと思う。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそうだ	7	1.1	1.1	1.1
	おおむねそうだ	115	18.2	18.3	19.4
	ややそうだ	251	39.7	39.9	59.3
	どちらともいえない	215	34.0	34.2	93.5
	ややそうではない	36	5.7	5.7	99.2
	おおむねそうではない	5	0.8	0.8	100.0
	合計	629	99.4	100.0	
欠損値	ｼｽﾃﾑ欠損値	4	0.6		
合計		633	100.0		

表 12. 質問項目 10. 患者の心情を理解できる看護スタッフがそろっている職場であると思う。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそうだ	25	3.9	4.0	4.0
	おおむねそうだ	211	33.3	33.5	37.5
	ややそうだ	248	39.2	39.4	76.9
	どちらともいえない	123	19.4	19.6	96.5
	ややそうではない	20	3.2	3.2	99.7
	全くそうではない	2	0.3	0.3	100.0
	合計	629	99.4	100.0	
欠損値	ｼｽﾃﾑ欠損値	4	0.6		
合計		633	100.0		

表 13. 質問項目 11. 私は転倒・転落対策に関心がある。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそうだ	56	8.8	8.9	8.9
	おおむねそうだ	152	24.0	24.1	33.0
	ややそうだ	242	38.2	38.4	71.4
	どちらともいえない	142	22.4	22.5	94.0
	ややそうではない	32	5.1	5.1	99.0
	おおむねそうではない	1	0.2	0.2	99.2
	全くそうではない	5	0.8	0.8	100.0
	合計	630	99.5	100.0	
欠損値	ｼｽﾃﾑ欠損値	3	0.5		
合計		633	100.0		

表 14. 質問項目 12. 私の病棟では、転倒・転落対策に関して他職種も関心を持って情報交換しているほうだと思う。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそうだ	28	4.4	4.4	4.4
	おおむねそうだ	108	17.1	17.1	21.5
	ややそうだ	166	26.2	26.2	47.7
	どちらともいえない	207	32.7	32.7	80.4
	ややそうではない	82	13.0	13.0	93.4
	おおむねそうではない	31	4.9	4.9	98.3
	全くそうではない	11	1.7	1.7	100.0
	合計	633	100.0	100.0	

表 15. 質問項目 13. 私の病棟では、医師は看護職員に協力的ではない。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそうだ	11	1.7	1.7	1.7
	おおむねそうだ	16	2.5	2.5	4.3
	ややそうだ	55	8.7	8.7	13.0
	どちらともいえない	174	27.5	27.5	40.5
	ややそうではない	128	20.2	20.3	60.8
	おおむねそうではない	179	28.3	28.3	89.1
	全くそうではない	69	10.9	10.9	100.0
合計	632	99.8	100.0		
欠損値	ｼｽﾃﾑ欠損値	1	0.2		
合計		633	100.0		

表 16. 質問項目 14. 私の病棟では、看護師と医師の間で十分なチームワークがとれている。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそうだ	16	2.5	2.5	2.5
	おおむねそうだ	144	22.7	22.8	25.4
	ややそうだ	216	34.1	34.2	59.6
	どちらともいえない	181	28.6	28.7	88.3
	ややそうではない	49	7.7	7.8	96.0
	おおむねそうではない	17	2.7	2.7	98.7
	全くそうではない	8	1.3	1.3	100.0
合計	631	99.7	100.0		
欠損値	ｼｽﾃﾑ欠損値	2	0.3		
合計		633	100.0		

表 17. 質問項目 15. 一般的にこの病院の医師は看護職員が行っていることを理解し、評価していると思う。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそうだ	7	1.1	1.1	1.1
	おおむねそうだ	97	15.3	15.4	16.5
	ややそうだ	191	30.2	30.4	46.9
	どちらともいえない	238	37.6	37.8	84.7
	ややそうではない	61	9.6	9.7	94.4
	おおむねそうではない	27	4.3	4.3	98.7
	全くそうではない	8	1.3	1.3	100.0
	合計	629	99.4	100.0	
欠損値	ｼｽﾃﾑ欠損値	4	0.6		
合計		633	100.0		

表 18. 質問項目 16. 職場における看護職員は忙しい時、お互いに助け合い、協力し合っている。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそうだ	162	25.6	25.7	25.7
	おおむねそうだ	288	45.5	45.6	71.3
	ややそうだ	124	19.6	19.7	91.0
	どちらともいえない	45	7.1	7.1	98.1
	ややそうではない	7	1.1	1.1	99.2
	おおむねそうではない	5	0.8	0.8	100.0
	合計	631	99.7	100.0	
	欠損値	ｼｽﾃﾑ欠損値	2	0.3	
合計		633	100.0		

表 19. 質問項目 17. 新採用者は私の病棟にすぐ溶け込めないでいる。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそうだ	19	3.0	3.0	3.0
	おおむねそうだ	39	6.2	6.2	9.3
	ややそうだ	116	18.3	18.5	27.8
	どちらともいえない	202	31.9	32.2	60.0
	ややそうではない	86	13.6	13.7	73.7
	おおむねそうではない	116	18.3	18.5	92.2
	全くそうではない	49	7.7	7.8	100.0
	合計	627	99.1	100.0	
欠損値	ｼｽﾃﾑ欠損値	6	0.9		
合計		633	100.0		

表 20. 質問項目 18. 私の職場において、看護職員の間では、素晴らしいチームワークと協力ができている。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそうだ	29	4.6	4.6	4.6
	おおむねそうだ	167	26.4	26.6	31.2
	ややそうだ	240	37.9	38.2	69.3
	どちらともいえない	151	23.9	24.0	93.3
	ややそうではない	29	4.6	4.6	97.9
	おおむねそうではない	10	1.6	1.6	99.5
	全くそうではない	3	0.5	0.5	100.0
	合計	629	99.4	100.0	
欠損値	システム欠損値	4	0.6		
合計		633	100.0		

表 21. 質問項目 19. 看護業務における看護職員は私の好むような親しみなどがすくない。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそうだ	6	0.9	1.0	1.0
	おおむねそうだ	23	3.6	3.7	4.6
	ややそうだ	83	13.1	13.2	17.8
	どちらともいえない	207	32.7	32.9	50.6
	ややそうではない	111	17.5	17.6	68.3
	おおむねそうではない	150	23.7	23.8	92.1
	全くそうではない	50	7.9	7.9	100.0
	合計	630	99.5	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	0.5		
合計		633	100.0		

表 22. 質問項目 20. 病棟では階級意識が強くて、看護職員のための交流がすくない。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそうだ	8	1.3	1.3	1.3
	おおむねそうだ	18	2.8	2.9	4.1
	ややそうだ	71	11.2	11.3	15.4
	どちらともいえない	188	29.7	29.9	45.3
	ややそうではない	136	21.5	21.6	66.9
	おおむねそうではない	156	24.6	24.8	91.7
	全くそうではない	52	8.2	8.3	100.0
	合計	629	99.4	100.0	
欠損値	システム欠損値	4	0.6		
合計		633	100.0		

表 23. 質問項目 21. 棟の看護職員は, “家族的ムード” が満ちていると思えない.

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそうだ	20	3.2	3.2	3.2
	おおむねそうだ	32	5.1	5.1	8.3
	ややそうだ	77	12.2	12.3	20.5
	どちらともいえない	200	31.6	31.8	52.4
	ややそうではない	124	19.6	19.7	72.1
	おおむねそうではない	129	20.4	20.5	92.7
	全くそうではない	46	7.3	7.3	100.0
	合計	628	99.2	100.0	
欠損値	システム欠損値	5	0.8		
合計		633	100.0		

表 24. 質問項目 22. この病院の看護職員はお互いにいがみあっている.

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそうだ	4	0.6	0.6	0.6
	おおむねそうだ	7	1.1	1.1	1.7
	ややそうだ	36	5.7	5.7	7.4
	どちらともいえない	139	22.0	22.0	29.5
	ややそうではない	77	12.2	12.2	41.7
	おおむねそうではない	215	34.0	34.1	75.8
	全くそうではない	153	24.2	24.2	100.0
	合計	631	99.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	2	0.3		
合計		633	100.0		

表 25. 質問項目 23. 必要以上に, また欲する以上に細かく監督されていると私は感じる.

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	全くそうだ	15	2.4	2.4	2.4
	おおむねそうだ	26	4.1	4.1	6.5
	ややそうだ	65	10.3	10.3	16.8
	どちらともいえない	191	30.2	30.3	47.1
	ややそうではない	89	14.1	14.1	61.2
	おおむねそうではない	168	26.5	26.6	87.8
	全くそうではない	77	12.2	12.2	100.0
	合計	631	99.7	100.0	
欠損値	システム欠損値	2	0.3		
合計		633	100.0		